

## 参加記

## SfN 2017 参加記

名古屋大学環境医学研究所

神経系分野 2 山中章弘研究室

博士課程 1 年 伊澤 俊太郎

2017 年 11 月 11 ~ 15 日の 5 日間、アメリカ合衆国ワシントン D.C. にて Society for Neuroscience 2017 が開催されました。光栄なことに、今回私は日本神経科学会から JNS-SfN Exchange Travel Award を頂き、各国それぞれの母体から Travel Award を受賞した参加者同士の交流イベントにも参加をしました。参加記という形で報告を致します。

各国からの Travel Award 該当者によるイベントは、International Fellows Orientation Session と International Fellows Poster Session の 2 つがあり、それぞれ大会初日の午前中、そして夜に開催されました。参加者は日本からの 5 名を含み計 50 名程でした。Orientation session ではポスター発表におけるコツ、例えば事前に回るポスターの予定を入念に立てることや、発表時に初めの数分で聞き手を惹きつける重要性について説明があり、その後簡単な自己紹介をするという流れでした。数分で研究の全体像を説明する、いわゆるエレベータートークの重要性は何度も強調され、ペアを組んで互いにトークし合う実践練習も 3 回ほど行われました。大会初日の意気込みもあってか、非常に盛り上がっていたように思います。私自身にとっても、良いトレーニングの機会になりました。夜に行われた Poster Session では、Travel Award に限らず様々な Award のポスター発表が同じ会場で開催され、200~300 のポスターがありました。ポスター件数は多いものの、オフィシャルの発表に比べるとリラックスした雰囲気だったと感じます。食事や飲み物を片手に、研究内容以外にも普段のラボでの研究スタイルなど、



Social event はとてもラフな雰囲気でした

ざくばらんな話にも盛り上がりました。

私はオフィシャルなポスター発表も大会初日、この 2 つのセッションの間の午後の時間に割り振られていました。午前中の実践練習の効果もあってか充実した議論ができたように思います。私の研究は、メラニン凝集ホルモン (MCH) 産生神経という視床下部の神経細胞による睡眠中の記憶制御をテーマとしています。視床下部や睡眠、記憶領域の幅広い研究者との議論も盛り上がりましたが、ピンポイントで MCH の研究に注力している研究者と知り合えたことには大きな興奮を覚えました。これまで論文で名前を見ているだけだった研究者と論文上には出ない情報についても議論ができ、大きな収穫を得ることができました。

大会期間中には夕刻に開催されるいくつかの Social event にも参加させて頂きました。特に印象深かったのが Sleep Research Society が主催する Social even 20 人ほどの演者がそれぞれ 1 分で研究内容を発表 Data Blitz というセッションは日本にはない空気感だ。司会者はコメディアンのように振る舞い、演者と



Orientation Session 後

け合いをしているかと思いきや、唐突にトークがスタート。発表が1分を過ぎようものなら観客席からはブーイングの嵐となり強制終了をさせられていました。しゃべり続けようとする演者を司会者が抱き上げて壇上から降ろすような一幕もあり、会場は大爆笑でした。トークの内容に意識が向いている観客は少数にも関わらず会場中が一体となった不思議な場で、ぜひ次の機会にはトークに挑戦してみたい所です。

私にとっては初の SfN 参加で、実のところとても緊張しながらの準備期間を過ごしていたのですが、今回機会を頂けたおかげでこのように充実した時間を過ごすことがで

きました。研究領域の知識を深められたのはもちろんのこと、ソフトスキルの面でも成長の機会となりました。Orientation Sessionで学んだエレベータートークや、大量のポスターを回る中で意識させられた相手のバックグラウンドを踏まえて質問・議論をするコミュニケーションといった側面は、ぜひ今後身に付けていきたいと考えています。改めて、今回の機会を下さった日本神経科学学会・国際連携委員会の先生方にお礼を申し上げ、本参加記を終わりたいと思います。

